

練馬区立小中一貫教育校推進委員会（第9回） 要点記録

開催日時	平成22年2月24日(水) 10時00分～11時10分	
会場	大泉学園桜中学校2階 会議室	
出席者	委員	本木薫、中島広美、諏崎啓美、伊藤照代、高野美樹、甲斐智重、和田尚武、中田清、相馬功紀、坂口節子、小川善昭、時政千恵子、坂田美由紀、木下川肇、高島邦夫、重田三夫、元木靖則、河口浩 (敬称略)
	その他	施設課長、保健給食課長、教育出版
	事務局	新しい学校づくり担当課、教育指導課
傍聴者	4名	
案件	1 練馬区立小中一貫教育校実施計画の中間報告 2 練馬区小中一貫教育資料作成委員会の中間報告 3 平成22年度検討スケジュール 4 その他	

1 練馬区立小中一貫教育校実施計画の中間報告

委員長

これより第9回小中一貫教育校推進委員会を開催する。事務局より委員の出欠状況の報告と資料の確認をお願いする。

事務局

本日は18人の委員全員が出席している。資料は1から4までを事前配付しており、当日資料としては第8回の要点記録の確定版を配付した。近日中にホームページ上にアップする。

委員長

それでは案件に沿って進める。まず練馬区立小中一貫教育校実施計画の中間報告について事務局から説明をお願いする。

事務局

まず資料1「中間のまとめ」の最終確認をお願いしたい。「練馬区小中一貫教育資料作成委員会 各部会の検討の概要」の内容について詳細なものを資料3として用意したので別途説明する。

前回指摘いただいた西門、東門の名称については修正する。本日の推進委員会については、正副委員長と相談のうえ事務局の責任校正とすることを了承いただきたい。

資料2は「中間のまとめ」の概要である。

委員長

「練馬区立小中一貫教育校実施計画 中間のまとめ」についてご質問、ご意見があればお願いする。

委員

正門のところにある電柱1本と運動場の2本の木は撤去するのか。

施設課長

都道にある電柱の移設は難しい。ただ都道の中央部分が花壇のようになっているので、門から通じる形で空けてもらうよう都と話を進めている段階だ。できる限り門を開けた時にすっと臨めるような形で、一部の木については移植または伐採を考え東京都に話をもっていつている。

委員

伐採はせず、移動してもらいたい。

事務局

真正面の桜の木は、シンボルとして残したうえで通路となるようにする。

委員

アンツーカーの部分も含め何度も見に行ったが、電柱と木があり、これらを撤去または移動しなければ通路を作るのは難しいのではないか。

委員長

その他ご質問、ご意見はあるか。

委員

真ん中に門ができた場合、保護者も遅刻してきた子供もそこを通ることになるのか。

委員

基本的にはそうなる。

委員

正門から入ると田んぼのあたりが正面になると思う。同じように正面には開放で使っている校庭の外トイレがあると思うが、どこか違う場所に移す予定はあるのか。

施設課長

排水関係も含め地中に埋まっているので動かす予定はない。

委員

田んぼという話があったが、5年生の社会科で食料生産を支える人々という単元で稲作中心の日本の農業の学習、中学の修学旅行では秋田で農業体験を行っている。小中一貫教育校では特色ある教育活動として小学校で稲作を中心に学び、中学ではその体験を基にしたキャリア教育、食育、環境教育の充実を考えていかなければならないと思っている。特色ある形にするために水田を拡大したり周辺の大々的な整備が必要と考えており、その一環でトイレが移動できなければ目立たない形に工夫することも必要かと思うので、関係の皆さんと相談したい。

2 練馬区小中一貫教育資料作成委員会の中間報告

委員長

それでは次に進める。「練馬区小中一貫教育資料作成委員会の中間報告」について事務局から説明をお願いします。

事務局

本日は冊子の形でご報告申し上げますので資料3をご覧ください。始めに基本方針、答申から抜粋したものを載せ、それを受けて「小中一貫教育資料の作成の方針」「基本的な考え」「部会資料」「今後の方向性」という形で構成している。

現在の教育活動をもとに、小中一貫教育校が編成する教育活動の土台となる9年間にわたる指導資料を作成することを目指してきた。これまでも小中学校では小中連携教育の意義や必要性を認識していたが、実態としては共通理解を図りながらともに歩むということは少なく、小中学校それぞれの教育を行っていた。各部会では年間9回の検討を重ねてきたが、小中学校の教員がこれらの課題を認識し、9年間を見通したものをつくること、共通理解を図ることにかかなりの時間を要した。

【概略】

小中一貫教育資料作成委員会の概要

* 「表現力の育成」「心の教育の推進」「体力の向上」「キャリア教育の推進」の4部会を設置。

- 21年度計画 ①「基本的な考え方」と「検討の視点」
②「重視する指導項目」とその定義づくり
③「目指す子供像」
④ 教育課程上の位置付け
- 22年度計画 ①必修プログラムと選択プログラムの開発
②学習指導案及び使用する児童・生徒用資料ワークシートの開発

「表現力の育成」部会

【重視する指導項目】～「調べる力」「組み立てる力」「表現に関する技能」「態度・相手意識」「語い力」

* 基本的な知識・技能の習得を基に観察、実験、レポート、論述というように各教科で

- 深め、特別活動の時間などにも広げながら表現に関する機会を意図的に設定していく。
- * 重視する指導項目ごとに各学習期で重視する学習活動を設定し、9年間の学びのなかで体系化していく。
 - * 「語い力」については教育活動全体にかかわり、全学習期を通してのものとなる。

「心の教育の推進」部会

【重視する指導項目】～「自尊感情」「思いやりの心」「生命尊重」「規範意識」「社会連帯の自覚」

- * 道徳の時間を中心に各教科、特別活動、総合的な学習の時間等に関連付け、地域との連携を図ることを大切にしながら「豊かな心」の育成を重点としていく。
- * 情報モラル教育は教育活動全体でとらえ、練馬区の地域資料も活用していく。
- * 重視する指導項目ごとに「学習期ごとに育てたい子供像」「学年ごとに育てたい子供像」を設定し、具体的内容は次年度検討のうえ提案する。

「体力の向上」部会

【重視する指導項目】～「運動に必要な動きや技能」「運動の楽しさを味わい、意欲的に運動に親しむ態度」「健康を保持増進するための知識や理解」

- * 学習期ごとにどんなところに力を入れていくかを細かく提示する。
- * 接続期の指導に特色をもたせるため、クラブ活動から部活動への移行などいかに円滑につなげていくかなどを検討する。

「キャリア教育の推進」部会

【重視する指導項目】～「自己肯定感・自立心をはぐくむ」「望ましい勤労観・職業観をはぐくむ」

- * 子供たちが具体的な成長モデルを想像できるような指導をしている。特別支援学級の指導も実践例にとり入れた。
 - * 各学習期にキャッチフレーズを設定し、現在提案できる具体的な実践例を提示する。
- 教員が使う学習指導案集をまとめ、子供たちが授業で使うワークシートについては、必要などころを使ってもらうために CD-ROM に収めて提供する。教科書のようなものは作成しない。
 - 今後の方向性として、接続期の特色づくりを検討し、少しでも早く資料を提供する。

委員長

練馬区小中一貫教育資料作成委員会の中間報告についてご質問、ご意見はあるか。

委員

1年に満たない期間でこれだけの中間報告をまとめられた努力に対して敬意を表したい。22年度は教育課程の編成に向け具体的な動きを強めなくてはならないが、一番の重点は小と中の授業のつながりをどうしていくかということだと思う。小学校の外国語活動と中学校の英語の

授業でどういうすり合わせをしていくか、体力づくりとの関係で運動会を小中一緒にやれるかなど、今後の方向性があれば教えていただきたい。

事務局

外国語活動と英語とのかかわりについては本委員会では扱っていない。区中研、教育会の外国語部会などで小中の橋渡しなどを研究しているので参考としていただきたい。

運動会については、時期の違いやマラソン大会の有る無しなど実態を知っている小中の教員が体力の向上部会で検討したが、まだ一定の方向は出ていない。

委員

中学校にはないが小学校では水泳記録会が体力づくりの大きな柱となる行事として行われている。運動会も単なるイベントではなく体力づくりの発表の場ととらえることが必要と考えている。教育課程編成の根本的な考えとして、これらを小中一貫の体力づくりとどう結び付けていくか、今後そういった視点で協議していただけるとありがたい。

事務局

本日も説明の資料は教育課程編成資料ではなく、校長の権限として教育課程を編成していただく際の、参考のための教育資料として提供するものである。先ほど話のでた小5の稲作体験、中3の秋田県修学旅行などは非常に力強く、このような学校独自の要素を入れた実践を行うための参考資料としていただきたい。

来年度はもっと具体的な指導書や教材をつくるが、単に桜小中の一貫教育のためだけにつくるのではなく、練馬区として必要な要素を網羅して全小中学校に配布し、全区展開をしていく資料となる。よって桜小、桜中に特化した内容になっていない印象をもたれると思う。

具体的に運動会をどうするかなどは校内で協議されるかと思うが、私どもの担当指導主事もお呼びいただき、知恵を出し合って具体的に詰めていければと思う。資料作成委員会にも要望を伝え良い知恵を提供していただければと考えている。

また、この資料に関しては理念的なことが多く、ご意見が出づらと思うが、4月早々に委員会を立ち上げ、具体的な教材をなるべく早く作り、できたものから提示する。具体的な内容であれば皆さんの知恵をお借りできるのではないかと思います。

委員長

ほかにご質問、ご意見はないか。

委員

初めて見る言葉なのだが「20mシャトルラン」というのはフルスピードで走ることか。

事務局

国で統一している持久力を測定するための方法で、20メートルの往復を測るのだが、定めた秒数をだんだん短くしていく。体力、持久力に優れた子は時間が短くなっても何往復もできるが持久力のない子は途中でストップしてしまい達成できなくなるという測定方法だ。

委員

昔なら 50 メートルを何秒で走るというような事だったと思うが、初めて知った。

事務局

中学校では 1000 メートル走、1500 メートル走も実施しているが、小学校のデータと比較するために、シャトルランを実施してもらい持久力としている。

3 平成 22 年度検討スケジュール

委員長

他にご意見がなければ平成 22 年度検討スケジュールについて事務局から説明をお願いします。

事務局

資料 4 をご覧いただきたい。大きく分けて「統一校名・校章・校歌」「教育内容・学校経営・学校組織」「教育目標と各項目」の三つについて検討していきたいと思う。小中一貫教育資料作成委員会と小中一貫教育校連絡会については適宜、検討状況について報告する。

「統一校名・校章・校歌」についてはアンケートでもあった方がいいとのご意見が多く、これらを検討し 6 月くらいには通称名として定めていきたい。

学校経営については「どんな学校をつくるか」という学校の考え方を示していただき、それに関連する資料を事務局から提示したうえで、皆さんのご意見をいただく。その他の項目も含め 4 月から 9 月で検討いただき実施計画にまとめたいと考えている。

提案だが関心の高かった統一校名についてはたくさんの方から提案をもらうため公募の形をとるのはいかがか。了解いただけるなら 4 月の推進委員会で公募の方法について資料を用意したい。

委員長

検討スケジュールについてご意見、ご質問はないか。

統一校名の検討について何かあるか。

委員

校名について具体的に地域の希望や意見はあったのか。

事務局

このような校名にしたらいという意見は直接聞いていない。

委員

「桜」という文字は残してほしい。

事務局

アンケートの自由意見欄でも「桜」という言葉を残してほしいという意見が割合多くみられ

たと記憶している。

4 その他

委員長

他になれば事務局より説明と提案があるのでお願いします。

事務局

年度の切り替えにあたっての委員の交代についてだが、皆さんに5月にお渡しした委嘱状の任期は2年間となっており、基本的には2年間お願いしたい。ただお願いした構成団体のご事情等で必要があれば委員の交代をすることも可能と考えている。交代の際には事務局にご連絡いただきたい。

次に代理出席についてであるが、要綱には言及されておらず何度かお問い合わせいただいている。どういう取扱いにするか本日皆様に整理していただきたい。基本的には代理出席は可でいいと思うが、代理を強要するものではなく、可能ならば代理者をお出しいただくという提案である。

委員長

ただ今の事務局の提案だが、ご確認いただいたということによろしいか。

— 了承 —

では次に事務局から連絡事項等あればお願いします。

事務局

3月13日午後2時から小中一貫教育校実施計画中間報告会を大泉学園桜中学校の体育館で行う。資料作成委員会のアドバイザーである廣嶋教授に基調講演をお願いした。その後「中間のまとめ」の報告をしたうえで、参加者からのご質問に答えていくという形で考えている。

委員長

本日の案件は終了したが、全般にわたって言い漏らしたことなどあればお願いします。

委員

心の教育の推進にも重なる部分かと思うが、小中一貫だからこそ子供たちの対人関係や思春期の悩みを解決するための「心のケア」という部門を設けてはどうか。子供が悩んだり、保護者が悩んだり、ときには先生が悩んだりという部分で小中一貫としての特色ある部門を考えてはどうか。

事務局

現在の子供たちは昔と比べきょうだいが少なく、保護者とのかかわりが増えた分、切磋琢磨したり他人とのかかわりに困難を感じている環境だと認識している。小中一貫教育校で行うのは9年間で全教師がすべての児童生徒を見守るとともに、地域の方々の力をお借りして、大勢

の大人が見守っているという環境を作り上げることである。多くの人との触れ合いを通じて、時にはつまずいたり挫折したりするかもしれないが、それらを乗り越えて目標の達成のため9年間努力し人間としてのたくましさや人に対する思いやりの気持ち、仲間意識を育てていきたい。

ただ今のご意見はつまずいたり、道に迷ったりする子共たちに対するご心配の声とありがたく拝聴した。その点でいえば小中一貫教育校では一人の校長の下に副校長を三人置く。そのうち一人は地域担当の副校長として、養護教諭、心のふれあい相談員、スクールカウンセラーとともに責任をもって1年生から9年生まで把握する役割をもたせる。学校として出来ること以外にも子育て支援課、児童相談所、民生児童委員、ゲストティーチャーなどいろいろな方のお力を借りてきめ細かく見ていく体制を組むつもりである。その面では十分に、他の学校以上にやっていくつもりだ。

委員長

それでは最後に次回の案件と開催日時だが、次回予定している案件について事務局から説明をお願いします。

事務局

統一校名について検討していただく。その他、学校経営、学校組織の基本的な考え方を協議していただきたい。

(第10回小中一貫教育校推進委員会の開催日程の確認)

4月14日(水) 午前10時～ 於 大泉学園桜中学校

委員長

以上で第9回小中一貫教育校推進委員会を終了する。